

「令和6年度 保健衛生・安全対策研修会」報告書

- 【期 日】 令和6年7月24日（水）
【会 場】 佐賀県社会福祉会館 2階 大研修室
【主 催】 佐賀県保育会
【参加者数】 90名（会場38名、オンライン52名）
【内 容】 研修1 12:30～16:30

「子どもの急性疾患の対応・気になる子どもの理解」

講師：藤田 一郎 氏

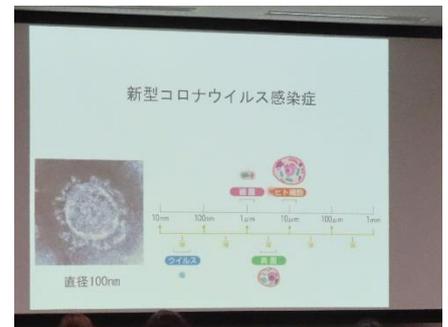
（福岡女学院大学 人間関係学部 子ども発達学科 教授）



【前編】 『子どもの急性疾患の対応』

◎新型コロナウイルス感染症

コロナウイルスとはエンベロープ（ウイルス表面の膜）上にコロナ（王冠）のようなたんぱく質の突起を持つRNAウイルスである。（エンベロープがあるウイルスはアルコール系消毒剤（70%エタノールなど）は効く。



・ 予防として

主な感染経路は飛沫感染や接触感染。予防として、手洗い、手指消毒、マスク着用が有効。
手洗い方法は、あわあわ手洗いの歌が覚えやすい。

◎かぜ（感冒、上気道炎）

冬はインフルエンザ、RSウイルス。夏はヘルパンギーナ、プール熱が流行。
細菌では溶連菌、肺炎球菌、マイコプラズマが多い。

◎ロタウイルス胃腸炎

突然の激しい嘔吐。水様下痢、発熱、腹痛、食欲不振。

合併症の脱水、痙攣に気をつける。

ロタウイルス胃腸炎予防ワクチン（シロップ状の飲む生ワクチン）有り。

◎熱中症

手足が痙攣したり、ぐったりしたり、意識状態が悪い時は熱中症を疑う。

涼しい所に移動。洋服を緩める。電解質入りの水分を飲ませる。

意識が悪い時や、水も飲めないくらいぐったりしている時は救急車を呼ぶ。

◎意識障害をきたす病気

脳の病気・・・熱性けいれん、てんかん、脳外傷
(脳挫傷)、脳炎、脳出血
全身性の病気・・・熱中症、脱水症、低血糖
アナフィラキシーショック
(食べ物、薬物、虫など)、薬物中毒



◎外傷

水道水で洗う。《湿潤療法》・・・くっつかないガーゼにワセリン軟膏を塗
って傷口に貼る。(以前は乾かして治す方法だったが、今は体液がある方が
治り方が綺麗で、治りが2~3倍早い) *キズパワーパット

◎火傷(やけど)

10分位冷やす。水疱があればつぶさないように注意する。
医療機関を受診・・・①広い範囲の熱傷 ②水疱がある(第2度熱傷)
③表面が黒く焦げるか、はがれている(第3度熱傷)

◎頭部外傷

「24h様子を見てください」意識は?会話が出来るか、手足の動き、頭痛等

◎乳幼児の事故

子どもの事故は発達段階と関係がある。
～が出来るようになったから〇〇してしまった、という観点。

◎異物誤飲

漂白剤、トイレ用洗剤、カビ取り剤、灯油、シンナーを飲んだ時、吐かせて
はいけない。(揮発するもの)

・気道異物の除去

背部叩打法(乳児)・・・頭部を下に向け、子どもの背中を手掌で強く叩く。
ハイムリッヒ法(腹部突き上げ法、1歳以上)・・・子どもの後ろに回り、拳
を作り、勢いよく引き寄せ子どもの腹部を圧迫する。

・AED(自動体外式除細動器)

心電図を解析し、致命的な不整脈に対して電気ショックを行う医療機器。

◎アレルギー

アレルギー物質には食物、ダニ、ほこり、動物の毛、花粉などがある。
食物・・・鶏卵、乳製品、小麦、ソバ、ピーナッツなど
アナフィラキシーショックの症状・・・蕁麻疹、喘息発作、顔面蒼白、腹痛・嘔吐

- ・子どもと良い関係を作る。
- ・好ましい行動を育てる。
- ・新しい技術や行動を伝える。
- ・問題行動を取り扱う。
- ・ハイリスクな状況への対応。
- ・行動計画を作る。



◎乳幼児揺さぶられ症候群

乳幼児を激しく暴力的に揺さぶることで脳表の静脈が断裂し、頭蓋内出血、眼底出血、脳障害を生じる。

【感想】

「子どもの急性疾患の対応」では、園生活において、いつ起こりうるかわからない疾患や事故についての対処法を詳しく知ることが出来た。

「発達障害」については、理解を深め適切な方法を学び、誰もが過ごしやすい環境をつくっていく必要性を改めて感じた。動画を見ながらの説明や確認等はとても分かりやすかった。職員みんなが適切な知識を身につけ、人的ミス等起こさないようにしていきたい。

(文責：社会福祉法人 川原福祉会 くるみこども園 川添 久美子)